



むし歯の自覚が  
40代で急増！

# 歯のはなし



## “よい歯の日”アンケートの結果について

4月18日の“よい歯の日”に向けて歯に関するアンケート調査が行われました。今回はこの中から、特に注目すべき結果をお話させていただきます。調査対象は、一般企業で行われている産業歯科健診の受診者で、20歳～69歳の男女3万8476人です。

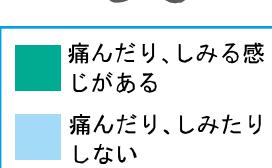
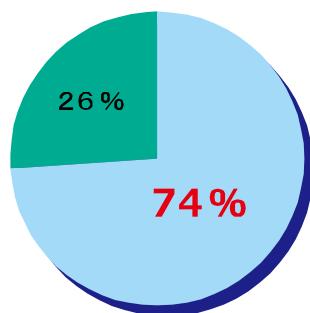


### むし歯があるのに自覚症状のない人…74%！

調査によると、むし歯があるにも関わらず自覚症状のない人の割合が74%ものぼりました。むし歯は痛みやしみる状態まで進行していると、簡単な治療では終わらない場合が少なくありません。その点、初期のむし歯であれば治療は軽く、中には歯みがきの見直しやフッ素の塗布で済む場合もあります。しかし、**自覚症状のないむし歯を自分で発見するのはとても難しい**ため、歯科医院での**定期的な歯科検診**が大切です。

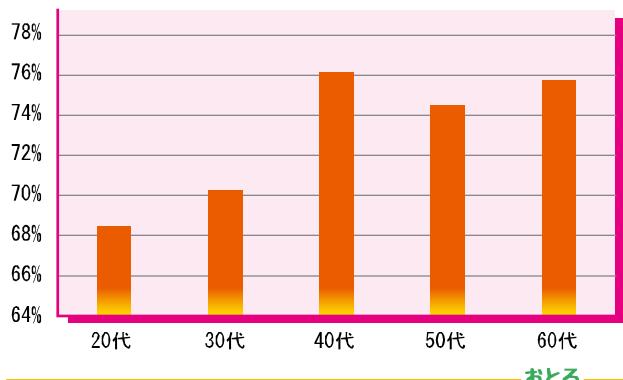


#### むし歯保有者の痛みの有無



### 自分のむし歯を自覚していない人…40代から急増！

#### むし歯を自覚していない人の割合



むし歯を自覚していない人を年代別で調査したところ、40代から急増していることがわかりました。厚生労働省の歯科疾患実態調査でも、近年子どものむし歯は減少傾向にあるものの、大人のむし歯が増加しています。特に多いのが、1度治療した部分が再びむし歯になってしまい「**二次カリエス**」です。



しかも、前の治療で神経を取ってしまった歯は痛みを感じることがないため、自覚症状がないまま重症化してしまう傾向にあります。これも自分では発見しにくいため、歯科医院での検診が重要です。

### 若い頃に比べて衰えを感じる部分…1位「歯」！

また、60代以上の男女300人にアンケート調査を行ったところ、若い頃に比べて「変化して欲しくなかった」「失って後悔している」部分について**1位が「歯」(61.3%)**でした。ちなみに、2位が「髪の毛」(60%)、3位が「体型」(43.3%)でしたので、年齢が高くなると体のスタイルよりも歯の健康の方が重視されるようです。



**若い時からのケアが将来の歯の健康を左右します。ぜひ、未来の自分のために、今できることをしましょう！**

#### クイズのこたえ

② 約25%

厚生労働省が平成11年に行った保健福祉動向調査では、歯間クリーナーを使用している割合は24.4%でした。歯周病が増える40歳～50歳代では使用率50%を目標にしていますが、同調査での使用率は29.3%でした。ぜひお口のケアに役立てましょう。